

# 技術者の会 “ニュースレター”(issue16)

Professional Engineers Association of Urban Disaster Preparedness

## TOPICS

1. ご挨拶..... 1
2. 事務局より..... 2
3. 活動報告..... 3
4. 人事報告..... 7
5. 新刊図書..... 8

### 1. ご挨拶

理事長を退任するにあ  
たって



名誉理事長 笹山 幸俊

平成 15 ( ' 03 ) 年 12 月 1 日に本会設立総会が神戸国際協力交流センター会議室で開催されました。以来、4 年半が経ち、本会の活動もその範囲、対象、内容ともに年を追って盛大に拡大してまいりましたのは慶ばしい事であり、会員の皆様をはじめ役員諸先生方のご協力の賜物と厚くお礼を申し上げます。

発会までの準備にも約 3 年程かかりましたが、阪神・淡路大震災の直後からその復興事業に携わっている人達、そしてその経過に関心をお寄せ頂いている多くの人達と語り合っている内に、この経験を是非次に発生する災害に備えて役立てたいと思うようになりました。そんな時に、(社)日本技術士会の人からこのような活動を共にしたいと申し出を受けました。大変な仕事である事は覚悟の上で理事長の職をお引き受け致しました。それは共に震災後から働いてきた神戸市や兵庫県の職員の人達や多くの学識経験者や市

民活動グループの人達を緊急時の防災・減災活動にできるだけ混乱なく携われるネットワークづくりができないものだろうかとの思いからでした。幸い多くの人達のご協力もあり活動が始まりました。NPO 法人として組織活動しようと考えましたのは、当時の内閣府政策統括官(防災担当)山本繁太郎先生のご賛同とご助力がありました。

このようにして現在までに当 NPO 法人「都市災害に備える技術者の会」も多方面に亘り、試行的活動も続けて参りました。

この時機を見て、山田事務局長を通じて私の理事長職を退任したい旨を一部役員の皆様にお願ひしました所、後任に室崎益輝先生(ご経歴等は別記)を得まして、総会の議を経た上で交替致すことになりました。もっとも先生はこの 4 月に総務省消防庁消防研究センター所長(東京都)の要職を了えて、関西学院大学総合政策学部教授として関西に戻られたばかりであり、大変お忙しいようではありますが、本会創設の時より現在に至るまでの経過も十分ご存知であり、活動にも参加して頂いておりましたので続いてよろしくお願ひ申し上げます。

私もこの業は天職として終生、皆様と共に全うしたいと思っておりますので、よろしくお引立て下さい。どうも有難うございました。以上

### 新理事長に就任するにあたり

理事長 室崎 益輝

阪神・淡路大震災から 13 年が経過した。時間の経過とともに、震災の経験の風化を感じるとともに、次の大地震がそろそろという危機感もつる。いずれにしても、風化ゆえの阪神・淡路大震災の二の舞は御免である。それだけに、大震災の教訓をしっかりと受け

止め、次の大震災に備えなければならない。

さて、阪神・淡路大震災の重要な教訓の一つに、技術が震災被害の軽減に貢献しなければならない、というのがある。無数の家屋倒壊や高速道路の崩壊は、改めて技術の防災に果たすべき役割を明らかにした。この震災から、技術者は技術の果たすべき役割の重みを受け止めて、この「都市災害に備える技術者の会」(以下「技術者の会」)が結成されたことはご承知の通りである。それだけに、社会の安心ニーズにこたえる技術者のリーダーとして、この技術者の会を質量ともに、一重に二重にも大きくしていかなければならない。

ところで、技術及び技術者が震災被害の軽減に寄与するためには、以下に述べる「2つのつながり」をしっかりと構築する必要がある。そのつながりというのは、第1に技術者と社会のつながりである。それは、社会のニーズに目を向けるということである。家屋の耐震補強や消火・鎮圧など、急いでその開発を図るべき減災技術が無数にある。経済性だけではなく人道性にも配慮して、技術の開発に心がけることが求められている。

第2は、技術者と技術者のつながりである。大震災で明らかになった技術の欠陥は、総合性や連携性を欠いているということである。安全性の向上には、技術が相互に連携した有機的なシステムが欠かせない。例えば、住宅の安全を考えてみると、構造の技術に加えて、地盤の技術、そして装備の技術が欠かせない。となると、それぞれに関わる技術者が相互に情報を共有して、トータルシステムとしての安全性の向上に努めることが求められる。

技術者の会は、まさにこの「つながりづくり」のための組織として、活動の実績を積み重ねつつ、自治体や企業さらには大学と連携しつつ、輪を大きく広げていこう。

最後になりますが、笹山幸俊前理事長のお力をお借りしながら、本「技術者の会」の活動を推し進めたいと考えていますので、変わらぬご協力をよろしくお願い申し上げます。

以上

## 2. 事務局より

### 事務局奮闘記

事務局長 山田 俊満

ニューズレター(第16号)をお届けします。今年の1月に第15号を発刊して4月か5月頃と予定していたところ、年に2回(神戸と大阪)の震災対策技術展開催の準備や技術士会催しの準備・実行に追われ、また、そこに本会のカリスマ的存在の笹山幸俊先生と室崎益輝先生の理事長交代、笹山先生については名誉理事長へのご就任と、次から次へと大仕事が入って参りました。これで済むかと思っていたところに、事務局広報担当の西出さんが会社の事情で5月末で本会ニューズレターより手を引かれることになりました。藤岡さん以来、建設技術研究所には梅田副理事長のお世話で広報一切をお引き受け下さったことに対して、本会としては厚くお礼を申し上げます。それだけに後継探しが大変な状況で、当面は補強を含め、何とかやり繰りして進めるより仕方無いようです。

一方、東京方面では会員にも物心両面で強力な助っ人がおられるが、パートナーとしての日本技術士会も十分意を交わしておく必要があります。幸いにして私が本部理事在任中に大震災が発生し、それを機にこの問題を本部において採り上げてもらい、数年間を置いて本NPO法人活動が始まった時に再度理事に就任し、技術士会活動にNPO法人で活躍する技術士の位置づけを明確にすることができました。これらの経緯を踏まえて、より技術士の災害発生時における関わり方を明解なものにしたいと努めているところです。このことは本会の会員増強につながるし、業務強化の道に拡大、発展することになり、技術士会全体の知名度、認知度の向上に貢献できるものと確信しています。

いずれにしても立ち止まることの許されぬ、今日この頃です。

以上

### 3. 活動報告

恒例の震災対策技術展は、第10回の平成18(’06)年までは近畿圏では阪神・淡路大震災記念事業との位置づけもあり、神戸市内(主に神戸国際観光コンベンション協会の会館内会議室や神戸国際会議場等)のみで開催されていましたが、昨年より大阪市内(インテックス大阪)でも開催されるようになりました。今年は「第1回災害対策セミナー in 神戸(1月15日)」、「第2回震災対策技術展/自然災害対策技術展 大阪シンポジウム(6月19日)」と2回にわたり行われました。

私達の終局の課題である「防災・減災ネットワークづくり」についてより具体的な活動を求める動きに応えるようにプログラムと講演者やパネリストを選びました。

#### (1) 第1回「災害対策セミナー in 神戸」 都市災害に備える活動を続ける技術者達と市民 —防災・減災のためのネットワークづくり—



室崎益輝氏(新理事長)

日時: 1月15日(火)13:00~17:00

場所: 神戸国際会議場 401、402号室

参加者: パネリスト、聴講者ほか計60名

- ・ 基調講演 室崎益輝 (総務省消防庁消防研究センター所長) 「減災と安全に貢献する技術の倫理と技術者の運動」
- ・ パネル討論会テーマ「都市災害に備えて活動を続け

る技術者達と市民」

- ・ パネリスト: 北野勝彦氏(NPO法人紀泉地域21総合整備協議会 会長)
- ・ パネリスト: 佐藤祐一氏(京都大学大学院工学研究科都市環境工学専攻 助教)
- ・ パネリスト: 清水煌三氏(奈良県障害者運転者協会 副会長)
- ・ パネリスト: 諏訪清二氏(兵庫県立舞子高等学校環境防災科教諭)
- ・ パネリスト: 辻 誠一氏(西大和6自治会連絡会事務局防災担当)
- ・ パネリスト: 中佐一重氏(泉南市防災技術者の会会長)
- ・ パネリスト: 長手 務氏(前神戸市理事(危機管理担当))
- ・ パネリスト: 生川慶一郎氏((財)京都市景観・まちづくりセンター、まちづくりコーディネーター)
- ・ パネリスト: 村井雅清氏(被災地NGO協働センター 代表)
- ・ コーディネーター: 向井通彦氏(大阪府泉南市長)
- ・ 総括コーディネーター: 山田俊満氏(日本技術士会近畿支部顧問同近畿支部建設部会長、NPO 法人「都市災害に備える技術者の会」副理事長)

第1回「災害対策セミナー in 神戸」は、平成7年1月17日の阪神・淡路大震災を契機に翌々年から開催されていた震災対策技術展が装いも新たになったものです。“都市災害に備える活動を続ける技術者達と市民—防災・減災のためのネットワークづくり—”と題し開催されました。

概要: 防災・減災のためのネットワークづくり

#### 室崎氏基調講演:

技術者に参考になることを話された。技術者の暴走を防ぐことでの、安全の概念の基礎となる技術者の品格、安全・安心のための技術開発の重要性。

#### 1、大震災と技術の問題点

震災時には欠けていた4つの減災技術があった。予測予見の技術、物的減災の技術、応急対応の技

術、 復旧復興の技術である。

## 2、事故多発と技術の問題点

日常的には技術の問題点は出てこない。このため技術者の社会的地位は低い。 技術者の防災的意識、技術者の市民的連帯は重なるものである。

## 3、教訓に学ぶこれからの技術と技術者

技術者に求められる「心、技、体」 心：技術者の倫理の問題。 技：新しい技術（耐震）。 体；技術には限界があり、それを埋めるのがネットワークであり、市民社会との連携である。

### パネル討論概要：

室崎先生がおっしゃられたように「技術には限界があり、それを埋めるのがネットワーク」と思います。前回までは官（行政）と学（学者）と専門家を中心にメディアを交えたネットワークについてのセミナーを実施してきましたが、今回は民間で災害対応のためのネットワークづくりに活動されている方々を中心にその活動状況が発表されました。今回の開催によって公共団体、学校、専門家、市民や市民団体間のネットワークづくりに貢献できました。

（文責 湯原徹、山本千維子、山崎和人）

## (2) 第2回「地域防災防犯展 大阪」

日時：6月19日（木）20日（金）

場所：インテックス大阪5号館

概要： 今回の「地域防災防犯展 / 震災対策技術展」は合計 153 社・団体が出展された。当会は展示ブース 707 号において近畿支部防災研究会会長石川浩次氏、会員の志達登氏、NPO 法人「都市災害に備える技術者の会」安達みず穂氏の協力を得てポスターも展示し、本部から提供を受けた資料等を来場者に配布し活動状況を紹介大変好評を得た。今回の来場者は2日間で 5,931 名(前回比約 10%増)と言われておりブース来場者も目標設定数 300 名以上であった。又今回は関西での地震発生への警戒意識の高まりに加えて、中国四川大地震や岩手、宮城内陸地震の影響が加わり人だかりのブースや立ち見の出るところが続出した。特に今回は南海トラフや上町断層と対策要素が増えている近畿圏に地震対策への興味関心がようやく高まってきた。前回に引き続

き防災対策に力点をおかれていることは確かです。同時開催のシンポジウムとの相乗効果による来場促進になったのではないかと考える。展示会は関係の皆様のお陰をもって大成功に終わることが出来ました。ありがとうございました。

建設部会長 山田俊満

## (3)シンポジウム「市民・学生達と考える防災・減災のネットワークづくり」報告

第2回「地域防災防犯展 / 震災対策技術展」大阪において、(社)日本技術士会近畿支部建設部会主催でシンポジウムを開催した報告である。「震災対策技術展」神戸は、平成7年1月17日の阪神・淡路大震災を契機に翌々年から開催されていた。今回のシンポジウムは、昨年に引き続き平成20年6月19日(13:00~16:00)にインテックス大阪5号館D会場において、“市民・学生達と考える防災・減災のネットワークづくり ボランティア活動の必要性”と題し開催された。泉大津市、京都大学、立命館大学(兵庫県立舞子高校卒業生) NPO などの活動が報告され、都市計画、土木、建築界と日本技術士会など関係者や一般参加者など 100 名余りの参加を得て、熱心なディスカッションが展開された。なお当日配布資料には、加藤内閣府政策統括官(防災担当) 吉田日本技術士会建設部会長、大元日本技術士会防災支援委員長、福岡日本技術士会近畿支部長等から寄せられた誠意と熱のこもったご挨拶文を掲載した。

## (4) WG-D『当NPO法人の今後の具体的な方向』活動報告

WG-Dでは今年第一回目の会議を去る5月24日に開催した。そこでは、【これから取り組む活動の方向】について議論した。(出席者6名)

WG-Dは平成18年7月1日に設立され満2年が経過した。その設立の背景には当NPO法人に寄せられた行政や有識者の皆様からの貴重なご意見を受けて《今後当NPO法人が社会に貢献し、防災・減災に役立てるためには何をなすべきか、また何ができるのかについてその方向性を考える》というテーマがあ

った。

議論の結果、具体的取組として小学校高学年を対象にした自然災害に対する防災・減災教育用資料を作成し教育現場で活用して戴くこととし、平成18年度として京都市教育委員会と数回にわたり打合せを行った。そして、現在の過密なカリキュラムの実態に直面し、新たに防災教育を授業に組み込むことの難しさを実感した。

また、昨年19年度は奈良県上牧町にある自主防再組織『西大和6自治会連絡会』との連携を図り、10月7日に開催された「防災対策講習会」では「阪神・淡路大震災と市民生活」と題してメンバーの片瀬範雄氏が講演を行い、先方の要望どおり被災体験者としての生の声を伝えることが出来た。

さて、これらの活動経過を踏まえ【これから取組む活動の方向】について再度議論した結果、先生方が学校教育の場で使用している防災・減災教育のための教材の補助教材(ちょっとした話のネタや裏話、ここだけの話的なもの)を作成し活用していただくこととなった。具体的には、話のネタを沢山収録したWG-Dの『掲成板』(防災・減災)を作成・維持管理し一般にインターネットで公開するものである。教える側の先生も十分な知識があるとは言えず、話のネタに困っていることも考えられる。教師が喜んで話をしたくなるようなウンチクを提供することを目的としている。当NPO会員の皆様からこの趣旨に沿った話題を広く提供して戴くことを期待しています。

WG-D代表 伊藤 東洋雄

## (5) 平成20年度定期総会議事録

開催日時：平成20年7月12日(土)14～15時

場所：(財)神戸国際協力交流センター

司会：太田英将事務局次長

議長：山田俊満副理事長

議事録署名人：伊藤東洋雄会員，森田孝雄理事

### 1. 議案

第1号議案：「平成19年度(第4期)事業経過報告および会計決算報告」

第2号議案：「平成19年度(第4期)会計監査報

告」

第3号議案：「平成20年度(第5期)事業計画案および会計予算案」

### 2. 議事報告

- 1) 笹山幸俊理事長より開会の挨拶があった。
- 2) 太田英将事務局次長より本日総会の出席状況の報告があった。出席者11名，委任状数29名，出席者・委任状総数40名，会員総数69名。定款により，総会は会員の1/2以上，すなわち35名以上の出席で成立するため，本日の総会は成立する旨の宣言があった。
- 3) 総会の議長を，本日出席した会員のうち，山田俊満副理事長を選出した。
- 4) 議事録署名人として，伊藤東洋雄会員，森田孝雄理事を選出した。

### 3. 議事内容

- 1) 第1号議案について，総会議案書に基づき太田英将事務局次長より説明があった。その後第2号議案について，鹿田晴彦監事，清水煌三監事とも欠席につき代わって太田英将事務局次長より収支決算が妥当である旨の監査報告(両会計監事署名入)があった。以上について賛成多数により原案通り承認された。
- 2) 第3号議案について，総会議案書に基づき太田英将事務局次長より説明があった。本議案は賛成多数により承認された。

### 4. その他

笹山幸俊理事長に代わり次期から室崎益輝理事が理事長に就任することが承認された。

また笹山理事長は名誉理事長に就任され、新たに尾見博武会員を顧問に迎えることが承認された。

以上をもってすべての議事が終了し、議長を解任した。その後、末利隼意新事務局次長による閉会挨拶があり、太田英将理事が閉会を宣言した。

## (6) 第20回研修会「WG活動報告および討論会」報告

第20回研修会は、2008年7月12日の定期総会に

引き続き(財)神戸国際交流協力センターで開催された。参加者は12名であった。

これまでの研修会は、主に講師の方のご講演を聴きその後質疑応答を行うという形式だったが、今回は、昨年に引き続き当NPOの各WGの活動について報告して頂きそれについて討論するという形を取った。司会は、伊藤会員(WG-Dリーダー)が担当した。

各WGの報告の前に先月発生した岩手宮城内陸地震と先々月発生した四川大地震の現地視察報告および神戸市職員及び退職職員による防災・減災支援団体についての報告があった。

#### 【岩手宮城内陸地震(報告者:太田英将)】

- ・荒砥沢ダム上流左岸側の大規模な陥没は液状化による地滑りによる。
- ・火山灰の堆積層は滑りやすい。
- ・最近では自然地盤でも液状化するということが広く認められるようになっている。
- ・ダム堤体の下が1Gで上が0.5Gであった。

#### 【四川大地震(報告者:片瀬範雄)】

- ・被災面積10万km<sup>2</sup>、死者7万人、行方不明者2万人、全半壊800万戸弱。
- ・北京での復旧・復興セミナーに参加、その後都江堰市郊外などの被災地や仮設住宅を視察
- ・阪神淡路大震災と山崩れが同時に来たという感じだ。
- ・少数民族に被災者が多く、現地での復興が可能か、都市部に移転させるかの是非が課題となっている。(中国では地方の農民が都市で永住する戸籍はもらえないことになっている)
- ・被災建築物の瓦礫のリサイクルや廃材処理、また建物の耐震化に関する質問が多かった。
- ・個人所有のマンション(土地は国有)をどのように再建あるいは補修するかの問題を抱えており、神戸での協働でのマンション再建方法に関心を持っている。
- ・仮設住宅建設100万個を予定し、内35万個は設置済。2k×3k/戸で25万円/戸位
- ・緊急資機材運搬用に道路には緊急専用レーンが設けられていた。

- ・沿海部の経済的發展を遂げている地域が政府の指定する被災地の仮設住宅建設や復興の支援をしていくカウンターパート方式をとっている。
- ・7月中旬には全体の復興計画を決定する予定で進めており、これについても大学や研究機関によるカウンターパート方式がとられている。



綿竹市郊外の村全体の家屋が被災した「九兪鎮」

#### 【神戸市職員及び退職職員による防災・減災支援団体について(報告者:長手 努、片瀬範雄)】

- (1) NPO「神戸の絆2005」
- ・設立目的、活動内容、組織について説明があった。
- ・活動内容については、中越、能登、中越沖での支援活動の内特に医療支援が喜ばれた。
- ・防災訓練、マップづくり、市民救命士を養成している。
- ・語り部活動(校長、教頭含む)で30~40回/年全国(静岡他)出張している。
- ・要援護者活動にも取り組んでいる。
- ・他府県にも存在をPRして欲しいとの要請があった。
- (2) 神戸防災技術者の会(K-T E C)
- ・設立目的、活動内容、組織について説明があった。
- ・活動内容については1回/月例会を開いている。
- ・大学での定期講座を除き20回/年程度講演をしている。
- ・最近「伝承 阪神・淡路大震災~われわれが学んだこと~」を発行した。

#### 【WG-C活動報告(報告者:太田英将)】

- ・宅造法改正には、当NPOの活動が深く関わっている。WG-Cは谷埋め盛土の宅地耐震化の実現をサポートする。

- ・改正宅造法施行後、現在約 20 の都市で一次スクリーニング(どこに谷埋め盛土が存在するかをあぶり出す)が行われ、2008 年度からは川崎市、鳥取市などが 2 次スクリーニングを開始している。対策工事は、特例的(事後対策であるという意味で)に中越沖地震で被災した柏崎市の山本団地で行われる。
- ・昨年 11 月から 1 月まで、2 次スクリーニングにおけるマニュアル作りに協力した。
- ・全国建設研修センターでは、毎年宅地耐震化の講師を派遣している。
- ・今後も、宅地耐震化に対して協力できることがあればその都度協力していく。

#### 【WG - D活動報告(報告者:伊藤東洋雄)】

- ・WG - Dの設立目的、これまでの活動経過などについて簡単な説明があった。
- ・現下の取り組みとして、「小学校で行われている地震や自然災害に関する防災・減災教育に役立つ補助教材集(ちょっとした話のネタ集)を作成し、当NPOのホームページで公開、先生たちに活用して戴く」ため『掲示板』(防災・減災)を作成中であるとの報告があった。
- ・これに関連して、ホームページに掲載し多くの先生たちにアクセスして戴くため関西学院大学災害復興制度研究所の「日本災害復興学会」ホームページとリンクして戴くよう出席の室崎益輝新理事長にお願いし、了解を得た。

(文責:伊藤東洋雄)

#### WGのご案内

随時 WG を開催しています。活動中の WG は、  
 三輪泰司さんがリーダー  
 「まちづくり・教育」WG  
 石川浩次さんがリーダー  
 「津波・地震災害軽減を考える」WG、  
 太田英将さんがリーダー  
 「谷埋め盛土防災を考える」  
 伊藤東洋雄さんがリーダー  
 「当 NPO 法人の具体的活動について」

WG に参加するためには登録が必要です。  
 詳細はホームページでご確認ください。  
<http://toshisaigai.net/wg/working.html>

## 4. 人事報告

### 人の動き

#### 事務局長 山田 俊満

本NPO法人平成 20 年定期総会を経て、笹山幸俊理事長から室崎益輝理事長への交替をはじめとする新しい人事体制で活動していくこととなります。

室崎益輝理事長は、本年 3 月 31 日付で総務省消防庁消防研究センターを退職され 5 年ぶりで関西へ復帰されました。東京在任中は阪神・淡路大震災で経験された貴重な体験を活かされて重要な法整備を進められてこられました。その間、お忙しい仕事の合間を縫って本会の副理事長、企画委員会副委員長として重責を担って頂き、現在も活躍が続けられています。今後は、関西学院大学総合政策学部教授として後進の育成に務められることになりました。その一方で本NPO法人のリーダーの一人として益々ご活躍を期待する次第です。

加藤利男内閣府政策統括官(防災担当)は現職に就かれて一年程になりますが、本NPO法人設立の生みの親ともいえる山本繁太郎先生から数えて 6 代目となります。いずれの統括官もその時その時に自然災害の襲来を受けて、これらへの対応、対処の様子は正に行政官の率先に立たれる役割を務めるのに命懸けであったと言えます。このお忙しい中であって、歴代の統括官は私達の組織の立ち上げから現在に至るまで、その成立、運営の過程に細心の関心を寄せて頂いております。これには本会の笹山幸俊理事長、河田恵昭企画委員長他、多くの会員が日々活動を積み重ねてきたことと相俟って、着々と基礎的なものが作り上げられております。設立当初からの山本繁太郎先生とのお約束は、本会が全国組織として活動が発展拡大することであり、加藤政策統括官と緊密に共同歩調をとりながら私達の活動を進めてまいりたいと思っています。

国交省近畿地方整備局企画部防災課長は、本年 4 月 1 日付で吉村元吾氏から森下淳氏に引き継がれま

した。なお、森下氏は技術士（建設部門）の有資格者です。

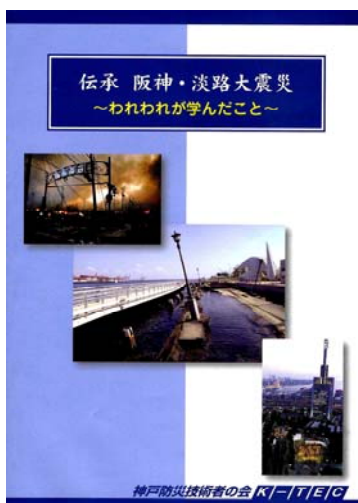
## 5. 新刊図書の紹介

本NPO法人とも関わりの深い「神戸防災技術者の会（略称：K-TEC\*）」が出版された図書を紹介いたします。

なお、K-TEC は阪神・淡路大震災より 10 年を経た 2004 年に、防災や減災に関わる制度や技術に関心を持つ神戸市役所の職員とその退職者により、震災のことを伝承していくことや、防災や減災について学んでいくこと、各地で頻発する自然災害に何らかの支援をしていくことを目的で発足された組織です。

この K-TEC の会員により、震災時の行動を振り返り、また、その後各地で発生した自然災害の支援を通じて学んだこと、大学での 1 年間にわたる講義をしてきたこと、毎月の定例会で学んだことが、1 冊の本としてとりまとめられました。

内容は震災直後から今日まで被災者の緊急支援事業から仮設・復興住宅の建設や住宅再建、地場産業の復興からインフラの復旧・復興、復興まちづくりを市民と協働で取り組んできた実践者の経験を記載したもので、関連数値などもコンパクトにまとめられています。



\*) K-TEC : Kobe Technical Experts Co-operative Association for the Prevention against Disasters

1. 図書名 : 「伝承 阪神・淡路大震災 ~われわれが学んだこと~」(A4版 290頁)
2. 発行者 : 神戸防災技術者の会 (K-TEC)
3. 著者 : K-TEC 会員 (21名) の共著
4. 価格 : 1,500 円 (税込み + 送料 160 円)
5. 主な内容 :

- 1) なぜ都市直下型大地震に襲われたか
- 2) 被害と復旧・市民生活への影響について
- 3) 被災者の生活再建支援について
- 4) まちの復興と市民との協働について

6. 購入申込先: 自費出版ですので購入希望の方は下記までメールでご連絡下さい。ご連絡いただいた方には振込用紙が送られてきます。

E-mail: [norio\\_katase@kobe-toshi-seibi.or.jp](mailto:norio_katase@kobe-toshi-seibi.or.jp)

### 変更届け提出のお願い

ご入会後に勤務先、住所などに変更がある場合、変更届けの提出をお願いいたします。

変更届は、HP よりダウンロードできます。すみやかにご提出いただきますようお願いいたします。  
(事務局)

### 会費納入のお願い

本年度 (20 年度) の会費の納入がまだの方は、すみやかにご振り込みいただきますようお願い申し上げます。

一般会員 : ¥5,000 賛助会員 : ¥25,000

#### 【 振込先 】

銀行名 : みずほ銀行

支店名 : 天満橋支店

口座番号 : 8 0 7 2 0 7 0

口座名 : 特定非営利活動法人

都市災害に備える技術者の会

### = 編集後記 =

会員の皆様にはそれぞれのジャンルで益々ご活躍のことでしょう。隣国中国では四川大地震、国内では岩手宮城内陸地震と大地震が立て続けに発生しました。技術者を中心として構成される本NPO法人としては、4年間の活動で得られたネットワーク化の核として、出来ることから着実に実行していきたいと考えています。

( K . S )